

しらかば

第81号

平成31年
(2019年)

1月

公益財団法人 北海道札幌市東区北26条東14丁目1-15
北海道対がん協会 TEL (011)748-5511 Fax (011)748-5512 <https://www.hokkaido-taigan.jp/>

「平成三十年 北海道功労賞」受賞

～地域医療の推進への貢献～

当協会 長瀬 清 会長

昨年、当協会 長瀬会長が北海道知事から「地域医療の推進への貢献」
としての功績を讃えられ北海道功労賞を受賞されました。

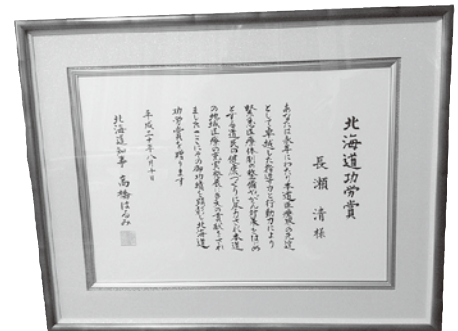
長瀬会長は、北海道大学大学院を卒業後、内科医として医療の最前線
で活躍されるとともに、北海道医師会会長としての重責を6期12年にわ
たり担うなど長きにわたり、医師の先頭に立って本道の地域医療の推進
に貢献、尽力されるとともに、北海道医療審議会の会長を務め、北海道
地域医療構想や医療計画の策定においても、幅広い知見や深い思慮の下、
リーダーシップを発揮し、北海道の保健医療福祉政策の推進に多大な貢
献をされてきました。

その功績の中でも特に北海道の地域医療において、平成17年に導入し
たドクターヘリは、本道の広域性を踏まえ、北海道全域をカバーするた
め全国の都府県では最多の4機体制を実現し、さらには、高度な医療を
広いエリアで提供するメディカルウイングについても道民の機運醸成や
国への積極的な働きかけを行うなど全国初となる運航を実現し、本道の
地域医療の推進に大きく貢献されています。

また、北海道対がん協会会長として、自ら積極的に道内各地に出向き、
講演などを通じがんや生活習慣病の予防に関する正しい知識の普及啓発
に努めるとともに北海道のがん検（健）診の受診率向上と精度管理向上
の取組を推進するなど道民の皆様方の健康の保持増進に大きく貢献され
てきました。



(左から) 長瀬会長、長瀬会長夫人、
高橋はるみ北海道知事
(平成30年12月14日贈呈式)



略歴

昭和39年3月 北海道大学医学部医学科 卒業
平成19年4月 (一社) 北海道医師会会長
平成20年4月 (公社) 日本医師会理事
平成26年7月 (公財) 北海道対がん協会会長

受賞歴

平成24年11月 日本医師会最高優功賞
平成28年5月 山上の光賞

主な役職等

北海道医師会会長
北海道対がん協会会長
北海道社会福祉協議会会長
北海道健康づくり財団理事長
北海道ユニセフ協会会長

北海道功労賞

北海道の経済・社会・文化等の発展に貢献
し、その功労が特に顕著な個人又は団体に贈
呈する賞で、知事が行う表彰の中で最高位
のものであります。

昭和44年に北海道開発功労賞として制定
(平成10年に賞の名称を北海道功労賞と改称)
して以来、平成30年で第50回目となります。

平成30年度 がん及び生活習慣病対策推進会議を 開催しました。



がん及び生活習慣病対策推進会議は、次年度の検（健）診事業計画を円滑に推進するため、北海道と共催で、保健所・市町村・事業所関係者を対象に開催しています。9月の胆振東部地震等の影響があったにも関わらず、4会場で103団体から131名のご出席をいただきました。

平成30年度は、がん予防のためにはがん検診の積極的な実施はもとより、生活習慣病対策が重要であり、受診者の利便性を図る上で、国が進めているがん検診と特定健診の同時実施の推進が必要であるとの考え方により、これまでの名称である「がん対策推進会議」を「がん及び生活習慣病対策推進会議」へと変更しました。

北海道からは、これまでのがんに関する報告に加え、新たに生活習慣病に関する報告がありました。まず、がんに関する報告では、多くの市町村が抱えるがん検診受診率の減少の問題に対し、ソーシャルマーケティングを利用した受診勧奨の手法の勧めや、それらの実施を下支えするための総合支援事業の積極的活用の推進の他、がん検診の精度に対してはプロセス指標を用いた質の管理を徹底することを求めました。次に、生活習慣病に関する報告では、喫煙率や肥満度合等の北海道を取り巻く生活習慣病の実態や、特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率などをグラフ化し、全国47都道府県を比較しながらの報告があり、糖尿病の重症化予防プログラムの一環として、地域連携パスの活用を推奨し、その一例として旭川地区糖尿病地域連携協議会の取組みをあげ、医療連携の更なる強化の必要性を挙げました。

対がん協会からは、次年度の検（健）診実施計画と精度管理状況についての報告の他、新たな取り組みとして、受診率向上と医療連携室の開設の告知を行いました。

受診率向上については、独自のコールセンターと対応のノウハウを持つ日本ATMヒューマン・ソリューションや特定健診の受診率向上に全国で実績のあるキャンサースキャンとの連携により、コールセンターやWEBを使った予約業務のアウトソーシングと人工知能を駆使した画期的な受診勧奨の実施が可能となったことから、積極的な活用を推奨すると共に、全国での導入事例や実績を紹介しました。

また、医療連携室の開設については、昨年の推進会議に出席いただいた市町村担当者様の意見を基に実現したこと、そして、旭川・釧路センターを含めた全道の相談窓口として、精密検査の内容や料金、受診先について保健師が相談に対応し、がん検診受診者の精密検査受診率を向上させ、医療機関での早期治療に結びつけていくことを報告しました。

なお、各会場における講演については、右記のとおりです。

江別市からは、行政の取り組み紹介として、「自己採取HPV検査事業」の導入事例とその実施結果が報告され、受診率の低い20代に対するアプローチの手段として、子宮頸がん検診との併用検診による細胞診異常の発見率への有用性に関する報告がありました。

【報告事項】※4会場共通

1. 北海道からの報告
 - ・がん検診の動向について
 - ・生活習慣病の医療連携の推進等について
2. 北海道対がん協会からの報告
 - ・平成31年度検（健）診の実施計画について
 - ・がん検診の精度管理について
 - ・医療連携室のについて
3. 受診率向上の新たな取組み紹介

<p>平成30年10月19日（金） 13:00～16:30 ホテルポールスター札幌</p>	<p>【講演】 「子宮がんについて」 （公財）北海道対がん協会 細胞診センター 所長 藤田 博正氏</p> <p>【行政の取組紹介】 江別市の事例「自己採取HPV検査について」 江別市健康福祉部保健センター 参事 赤石 春佳氏</p>
<p>平成30年10月22日（月） 13:00～16:00 帯広市保健福祉センター</p>	<p>【講演】 「乳がん検診は、だれのため」 社会福祉法人北海道社会事業協会帯広協会病院 病院長 阿部 厚憲氏</p>
<p>平成30年10月23日（火） 13:00～16:00 釧路がん検診センター</p>	<p>【講演】 「乳がんの診断と治療～早期発見の重要性について～」 独立行政法人労働者健康安全機構 釧路労災病院 副院長 小笠原 和宏氏</p>
<p>平成30年10月25日（木） 13:00～16:00 旭川大雪クリスタルホール</p>	<p>【講演】 「胃がんとピロリ菌について」 （公財）北海道対がん協会 旭川がん検診センター 内科部長 野村 好紀氏</p>

第50回 がん予防道民大会

平成30年10月12日（金）、帯広市民文化ホールにおいて、第50回がん予防道民大会が開催されました。

この大会は、道民に対してがんに関する正しい知識の普及を図ることを目的に、例年、道内の市町村で開催しているものですが、第50回の本大会には、地元帯広市民をはじめ、全道各地から約700名の参加を得て、成功裡に終えることができました。そして、今年は帯広三条高校、鹿追高校の生徒、帯広コア専門学校の学生346名にも参加していただき、がんについて学びました。

がん予防功労者表彰では、がんに対する正しい知識の普及啓発やがん検診の受診促進に功績があった江別市、美瑛町、清水町の3市町に対して北海道対がん協会から表彰されました。また、優良がん対策推進企業として、(株)セイショウ、恵庭建設(株)が、北海道から表彰を受けました。特別講演では、日本対がん協会会長垣添忠生氏から、「人はがんとう向き合うか？」と題して、がんについてのわかりやすいお話を医師として、また自身が、がん患者であり、がん患者家族である経験を交えたお話をされました。健康講話は、タレント・女優・よつばの会代表原千晶氏が「大切にしたい自分の体」と題し、自身のがん体験を語りました。

来年度のがん予防道民大会は、10月11日（金）に滝川市のたきかわ市民文化センターで開催予定です。



日 時：平成30年10月12日（金）12：45～15：50
主 催：北海道・帯広市・(公財)北海道健康づくり財団・(公財)北海道対がん協会
表 彰：がん予防功労者表彰 江別市・美幌町・清水町
優良がん対策推進企業表彰 (株)セイショウ・恵庭建設(株)
特別講演：演 題「人はがんとう向き合うか？」
演 者 (公財)日本対がん協会会長 垣添忠生 氏
健康講話：演 題「大切にしたい自分の体～2度の子宮がんを体験して～」
演 者 タレント・女優・よつばの会代表 原 千晶 氏

第51回 北海道家族の健康をまもる講習会

平成30年7月10日（火）～11日（水）の2日間、国立大雪青少年の家（美瑛町）において、第51回北海道家族の健康をまもる講習会を開催いたしました。

この講習会は「健やかでいきいきとした生活を送るために」をテーマに健康に関する正しい知識をより一層深くするとともに、各地域の親善交流を図り、もって家族の健康をまもる地域保健活動を円滑にすることを目的として年1回開催しております。

主催は北海道健康をまもる地域団体連合会・北海道食生活改善推進員協議会・公益財団法人北海道結核予防会・公益財団法人北海道対がん協会の4団体で、北海道が後援となっています。

今回は4市町・4団体から56名の参加者がありました。

講習会初日では、レクリエーションと全体交流会が行われ、参加者同士の交流と親睦を深めました。レクリエーションは生憎の雨のため屋内の活動となり、映画鑑賞、バッジ作りを行い、全体交流会では各団体紹介、結核予防会と北海道対がん協会の事業説明、「あなたの地域の健康づくり」をテーマにグループワークを行いました。それぞれの地域の実情などを交えた活発な意見交換と発表を行い、最後に全員で花笠音頭を踊り親睦を深めました。

2日目は講師を招き、2講演が行われました。1講演目は、北翔大学院生涯スポーツ学部教授小坂井留美氏から「健康寿命延伸に向けた運動の役割～肺の健康と介護予防～」肺の健康と運動について話されました。2講演目は、管理栄養士／アンチエイジング栄養士上坂マチコ氏から「食事で健康と若さを保つ方法～健康長寿は食事が決め手～」食生活の大切さを身近な例を挙げて話されました。

来年度は第52回となり、平成31年7月4日（木）～5日（金）の日程で開催予定です。地域保健活動にご興味のある方であれば、どなたでも参加できます。



札幌がん検診センター 内視鏡実施体制を強化しました



胃がん検診に関する国の指針が改訂されたことを受けて、札幌がん検診センターの内視鏡体制の強化を行いました。受診者に精度の高い内視鏡検査を受けていただけるよう、内視鏡システムの更新と1日3台体制の確立を行い、内視鏡室の効率化を図りました。また、今までバリウム検査しか受けたことのない方にも、安心して内視鏡検査を受けていただくために、嘔吐反射の少ない経鼻ファイバーも増設致しました。

札幌市でも、国の指針改定を受けて、平成31年1月1日より、胃内視鏡検査が追加になりましたが、札幌がん検診センターでは内視鏡検査の実施体制を強化しましたので、内視鏡を選択される受診者の方にも、安心して検査を受けていただければと考えております。

地域の多くの方に、より安全で安楽な内視鏡検査を受けていただけるような体制といたしました。今後とも、札幌がん検診センターをご利用くださいますようお願いいたします。

膵臓がんの早期発見に向けて



膵臓がんは発見しづらいがんであり、高い死亡率を持つ難治がんの一つです。近年は増加傾向にあり、2017年の国内死亡数は34,224名で、部位別の死亡数で4位となっています。また、膵臓がんの5年生存率は5.1%と低いですが、I期の早期がんでの5年生存率は41.2%であり、膵臓がんを早期もしくは前がん病変の発見による早期治療介入は生存率を押し上げる可能性が高いといわれています。

こうした中、北海道対がん協会では、本年4月から1年間、札幌市民を対象に、北海道大学第三内科と共同で、国立がん研究センターが新たに開発した血液バイオマーカーで「アポリポたんぱくA2」というたんぱく質を測り、膵臓がんの早期発見に役立つかどうかを調べる研究に参画することになりました。この「アポリポたんぱくA2」は膵臓がんの患者さんの血液では減っていることがわかり、これを利用して膵臓がんの早期発見ができるかを確かめる研究となります。この血液バイオマーカーは従来のバイオマーカーと比べ精度が高く、画像検査と組み合わせることで膵臓がんおよび前がん病変の発見が期待できます。研究成果によって、より効果的で効率的な検診法を確立することにより膵臓がんの早期発見への期待が高まります。今後とも北海道対がん協会といたしましては、効果的な検診の確立に向けて、積極的に取り組んでいきたいと考えております。



がん征圧・がん検診 受診促進月間の取組み

日本対がん協会では、毎年9月を「がん征圧月間」と定め、がんとその予防についての正しい知識の徹底と、早期発見・早期治療の普及に取り組むこととしています。

北海道は、9月と10月を「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」と定め、関係団体参加のもと、

北海道全体でがん対策に取り組む機運の醸成を図ることとしています。

当協会でも、9月5日に北海道庁1階道民ギャラリーにおいて、北海道との共催による「がん予防普及パネル展」を実施しました。当初は9月5日と6日の2日間を予定しておりましたが、9月6日未明に発生した胆振沖地震により、6日の開催を中止し、1日のみの開催になってしまいましたが、がんに関する各種パンフレットや「乳がん触知モデル」を設置し、多くの皆さまにご覧いただくことができました。

○2018年度がん征圧全国大会 千葉市で開催

～2018年度の「がん征圧スローガン」に

北海道支部職員が最優秀賞受賞で表彰～

「がん検診 未来の自分にできること」

がん征圧月間にあわせて毎年開催している「がん征圧全国大会」。今年は千葉県千葉市で行われました。

がん征圧全国大会では、患者団体や医療関係者ら約1,400人が参加のもと、記念講演や日本対がん協会賞と朝日新聞社による朝日がん大賞の表彰、また、対がん協会のグループ支部職員の永年勤続者への表彰が行われましたが、2018年度のがん征圧スローガンには約200人の応募の中から北海道対がん協会元職員（現 北海道立衛生研究所勤務）の北友美抄子さんの作品「がん検診 未来の自分にできること」が最優秀賞に選ばれ表彰されました。



長瀬会長に表彰を報告する北友さん
(左から) 長瀬会長、北友さん

○各取組みの様子



がん予防普及パネル展



街頭PRの様子（ポケットティッシュを配布）



❖ 北海道がん対策基金 ❖

募金状況

12月31日現在の累計募金状況は

20,546,694円

引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

募 金 内 訳		
個人	54件	4,618,192円
企業・団体等	284件	9,799,420円
自動販売機	98件	5,247,479円
募金箱	92件	880,359円
その他	12件	1,244円

お問い合わせ〈事務局〉

- 公益財団法人北海道対がん協会
経営管理部企画課 Tel (011) 748-5518
- 北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
がん対策グループ Tel (011) 204-5117

北海道 胆振東部地震

平成30年9月6日未明、北海道で初めて震度7を記録した北海道胆振東部地震が発生。ブラックアウトが起きるなど道内全域が被害を受けました。

このたびの地震により犠牲になられたかたがたのご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被災された皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

10月9日、この地震による土砂崩れや家屋の倒壊などで、甚大な被害のあった厚真町・安平町・むかわ町の3町へ出向き、北海道対がん協会白川専務理事が、町長へ見舞金を直接贈呈しました。各町長からは「この地震の復興にありがたく使わせていただきます」とのお言葉をいただきました。

当協会は、この3町において毎年5千人を越える検（健）診を実施しており、町民の皆様の一日も早い復興に向け少しでもお役に立てればと願っております。

地震当日は、停電・断水のため巡回検診・施設検診では休診を余儀なくされ、ご迷惑をおかけしましたが、発電機を搭載した検診車を使用して近郊住民のため携帯電話の充電を提供、約百人が利用されました。

社会福祉施設における健診を積極的に受託しています

近年の少子高齢化と人口減少の流れの中、社会福祉サービスの重要性は一層高まっていますが、多くの社会福祉施設で人材が確保できない状況が深刻化しており、福祉人材の確保が緊急かつ重大な課題となっています。

このため、当協会として、これまで培ってきた技術と経験を生かし、社会福祉施設（老人福祉施設、障害者支援施設、保護施設、婦人保護施設、児童福祉施設等）で生活する利用者と職員の皆様の健康管理を支援するため、健康診断の実施に積極的に取り組むことといたしました。

社会福祉施設が、利用者や職員の方々の健康管理に積極的に取り組む姿勢は、人材確保にも有効であると確信しています。

社会福祉施設の巡回による健康診断について

- 社会福祉施設の皆様のもとを巡回して、職員及び利用者の方々の健康診断を行います。
- スタッフは専門技術と経験によるノウハウがあります。
- 受診される方の安全確保とプライバシーにも最大限配慮します。
- 全道初、腰痛検査の撮影に最も適したフラットパネル方式のX線装置を搭載した検診車を導入しました。
※従来の撮影装置に比べ、歪みやムラが少ない鮮明な画像を得ることができ、読影の精度の向上が図られることが期待できます。
- 健康診断の実施については、お気軽にご相談下さい。
札幌がん検診センター事業管理課：TEL 011-748-5519

平成30年度 リボンの願い事業

(公財) 北海道対がん協会 × 北海道コカ・コーラボトリング株式会社

当協会では、北海道コカ・コーラボトリング株式会社（以下、北海道コカ・コーラ）と協働で「リボンの願い事業」と名付けたピンクリボン活動を展開しています。

この活動は、当協会と北海道コカ・コーラが平成22年に締結した協定書に基づくもので、設置先様のご協力を得て、自動販売機の売上の一部を、北海道コカ・コーラから当協会に寄附していただき、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療に結びつけるピンクリボン活動に活用させていただいています。これは、北海道循環型の珍しい取り組みです。

今年度は、事業開始から平成29年度までに寄附していただいた寄附金の累計金額が一千万円を突破したことを記念し、さらにこの活動を拡大するべく、ピンクリボンクリアファイルの制作に取り組むこととしました。クリアファイルの制作にあたっては、札幌市立大学デザイン学部の皆さんの協力を得て、学生の皆さんからデザインを募集し、当協会と北海道コカ・コーラの選考委員により選考を行い、デザインを決定しました。採用されたデザインを考案してくださった、2年生の本間しおりさんをはじめ、応募していただいた学生の皆さまには、この場をお借りして、改めて感謝を申し上げます。本間さんには、デザイン学部の大淵講師と共に、お披露目式にもご参加いただきました。

今回制作したクリアファイルを道内各地のイベント等で配布し、道民の皆さまに乳がん検診の重要性を伝えていきたいと考えております。

また、リボンの願い事業では、平成28年度から、無料乳がん検診バスツアーを開催しています。これは、40歳以上の女性で、乳がん検診を受けたことがない、または3年以上乳がん検診を受けていない方を対象に、コカ・コーラ工場の見学と乳がん検診をセットにし、楽しみながら乳がんについて学び、検診を受けていただくという企画です。

平成28年度は定員20名で開催しましたが、好評だったことから、平成29年度は定員を40名に倍増して開催しました。平成30年度も定員40名で募集しましたが、2倍以上の応募をいただきました。昨年も有名人の方の乳がんに関する報道が続き、関心を寄せてくださった方も多かったのではないかと考えています。今年度は、2倍以上の応募があったことから、急ぎよ、落選した方を対象に平成31年2月に第2回を開催することとしました。

現代では、女性の11人に1人がかかると言われている乳がん。30歳代から増加し、40歳代後半と60歳代前半にピークがあります。2年に1回の検診と月1回のセルフチェックで、ご自身の身体を乳がんから守ってください。このバスツアーに参加された皆さんが、今後も検診を継続受診し、周囲の方にも検診の重要性を伝えてくだされば幸いです。



(左から)
北海道コカ・コーラ 川村取締役
札幌市立大学 本間さん
北海道対がん協会 白川専務理事

